教育目標	<p>教育方針（高南E P）</p> <p>校訓「自主自立 質実剛健 友愛協調」にうたう建学の精神に基づき、こころ豊かな人づくりに取り組み、高い知性と優れた徳性、たくましい体を兼ね備え、広い視野をもって社会に貢献する人材を育成する。</p> <p>そのため、すべての教育活動に通じる共通目標を立て、生徒と共有することにより、学力、体力を高めるとともに生徒の人格的成長を促す。</p> <p>◎共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 〔自主〕自ら進んでものごとに取り組む力を身につける 〔思考力〕根拠をもとに論理的に考える力を身につける 〔対応力〕状況を的確に判断し行動する力を身につける <p>◎共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 〔自立・自律〕ルールや約束、自分が決めたことを守る力を身につける 〔実行力〕課題に向かい目標を目指して行動する力を身につける 〔コミュニケーション力〕考えや思いを整理し伝え合う力を身につける
重点目標	<p>以下のものを重点目標とする。</p> <p>ア 進路実現に向け、基礎学力の定着を図り、学力を向上させる</p> <p>ウ 情報教育を推進する</p> <p>オ 広報活動を促進する</p> <p>キ 教職員としての資質と実践的指導力を高める</p> <p>イ キャリア教育を推進し、進路指導を充実する</p> <p>エ 地域環境を教育活動に生かす</p> <p>カ 地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む</p>
学校関係者による総合的な評価	<p>・校訓に基づいた、先生方、全生徒、PTAの情熱的な活動</p> <p>・1、2学期とHpや行事毎に、春名校長先生、教頭先生を筆頭に各担当の諸先生方が校訓のもと情熱をもって、教育実習活動の記録を丁寧にとられたのが素晴らしい。</p> <p>・コロナ禍で大変な中、先生方には本当に頭の下がるといふ思いと何事もなく運営して頂いていることに感謝しかありません。</p> <p>・教職員の負担軽減を配慮しつつ、情熱と熱意を絶やさないよう頑張ってもらいたい。</p> <p>・生徒の自主性を重んじ、生徒主体とした教育活動が一人ひとりの活気と活力に繋がっている。さらなる文武両道を目指してほしい。</p> <p>・本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により多方面での対応があり、適切であり、保護者として感謝したい。</p>

NO	観点	項目	目 標	評価	評 価 内 容	関係者評価
1	学校経営	協働体制の確立	部や学年などの分業間の連携が円滑に行われるよう工夫、協力する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各部学年間の連携においては、さらなる工夫が必要であると感ずる。 学年や各部の情報共有に不安がある。学年間、部との横のつながりを強くする必要がある。 情報を統括し、今まで以上に全職員が共有できるよう工夫が必要であると感ずられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大下、先生方の強力な指導のもと生徒を最善の方向に導いている。 教職員の役割分担体制と組織管理がスムーズに機能している。 コロナ禍の中で、高砂南校の目指す目標が明確であるため、教職員も生徒も何をすべきかしっかりと意識を持ち、これからの意欲的に積極的に取り組んでほしい。 学年・部間、教職員間で、情報共有をいっそう進めてほしい。
		重点目標の理解	本年度重点目標を理解し、その具現化にむけた教育実践を行う。	A		
2	学習指導	資質の向上	各教科、各学年での到達目標に向けた計画的な学習指導の工夫、改善を行っていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> 来年度、及び再来年度の新教育課程について、分かる授業やカリキュラムの在り方について、各教科がじっくりと考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の将来の進路を先生と生徒全員が、PTA、地域が計画的に指導を發揮している。 新教育課程について、各教科がじっくりと考えることができたのは大変素晴らしい。 生徒の自ら学ぶ学習習慣の指導の継続を願いたい。 今の状況で苦慮するが、創意工夫により公開授業の発信など教員のスキルアップをしてほしい。
		適正な生徒評価	客観的で公平・公正な評価を行い、次の目標設定に役立てる工夫・研究を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や公開授業週間等の機会を活用し、教科を超えて互いに研鑽し授業力を高めた。 成績や評価については、評価基準を明示でき、基準にもとづいた評価ができた。 オンラインでの課題配信やアンケートを活用が増えてきている。来年度、教員側と生徒側の双方方向が可能な環境の整備を進めていく。 	
		個に応じた学習指導の工夫	授業実践に向けての研究と改善に努め、生徒の学習意欲向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現に向けたニーズを敏感に感じ取り、個々の成長段階に応じた指導や、生徒の実情に応じるなど、多様な指導の在り方を検討していく必要がある。 	
			多様な生徒のニーズに対応する、個に応じた学習指導の工夫を行なう。	B	<ul style="list-style-type: none"> 早朝や放課後の補習、朝のSHRでの小テストなど3年間計画的な指導ができた。緊急事態宣言後の休校期間中も各教科工夫した指導ができた。 	
3	生活指導	生徒指導方針と協働体制の確立	社会の構成員としての規範意識や責任感を培う指導を実践する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の生徒指導方針を生徒・保護者がしっかりと理解し、自主的に自分の行動に責任を持って学校生活を送る生徒を育む取り組みが必要だと実感する。校訓の「自主・自立」が独り歩きし、自分の判断で誤った行動をとる生徒が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が、生徒・保護者・地域の方々と校訓の通りに指導されている。 自転車の通学状況もほぼ良好。しかし、一部の生徒による自転車運転に関する苦情が多いのは大変である。校則に従い、教員、PTA、保護者の協力を得て生徒の指導を強化してもらいたい。 制服の着用、身だしなみも整っている。 学校と家庭の連携を密にして、生徒の人間形成をさらに進めてほしい。 カウンセリングマインドの実施など生徒に寄り添う指導を継続していただきたい。 資質の向上、成績・評価は適正であると思う。オンラインの活用については検討する必要がある。
			校則について共通理解を持ち、学校全体として個々の生徒の指導に当たる体制と雰囲気作りを努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自転車運転に関する苦情電話が多い。地域社会の一員として、規範意識をもっと培う指導を実践する必要がある。 校則について、共通理解は細部な指導の統一が課題である。生徒や保護者に対して断定的、一方的な指導を行わず、話し合いによる指導を進める必要がある。 	
			多様な生徒の実態に対応し、カウンセリングマインドをもって指導にあたる。	B	<ul style="list-style-type: none"> クラス替による担任の変更で、生徒もまた大きく変化している。生活面、成長している者やそうでない者は、環境のく影響もあり、学校や学年で統一した指導体制の確立が必要である。 3年間、正・副主任が生徒昇降口で生徒を迎えた。挨拶の励行、生徒の顔を毎日見たり、話をすることで変化を見逃さないようにつとめた。各担任は朝・終のSHRではより丁寧なSHRを運営ができた。 	
4	進路指導	進路意識の育成	適正な進路に関する情報の提供など、生徒が自己実現に向け自ら計画的・継続的に実践する力を育てる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識の高揚を目的として、1年生では文・理系の説明する講演会や系統別ガイダンスを、2年生では大学・企業訪問、キャリア教育ガイダンスや進路別ガイダンスを、3年生では大学中心の進路ガイダンスや講演会を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止により計画変更を迫られた。が、規模を縮小したり、リモートによる講演会など方法・手段を変えたりし、できるだけ計画を実行した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年時から、2学年3学年と生徒本人の進路意識の高揚を、このコロナ禍の中、よく指導された。 各学年に適切な進路意識の育成やガイダンスの効果は大きい。今後より一層の充実を目指してほしい。 入試の変化に迅速に対応できるような教職員の研修と家庭との連携を強化していただきたい。 生徒と家庭への連絡をさらに徹底していただきたい。 生徒アンケートで交通マナーではできていない(94.8%)にもかかわらず、苦情電話が多いのはなぜ。生徒の誤った「自主・自立」なのか検証が必要。
		進路指導体制の充実	家庭との連携をとりながら、生徒の能力・適性・興味・関心により、生徒自らが主体的に進路を選択、決定することが出来る指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜入試や学校推薦入試といった名称の変更だけでなく、その入試内容やプレゼンテーションをさせる新しい方式に対応できるように研修を行った。 ネット出願など情報機器を使用できる環境整備を行った。 	
5	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	学校の教育活動の方針や内容を積極的に家庭や地域に提供する。	A	<ul style="list-style-type: none"> オープン・ハイスクールが授業と平行しての実施であったので、職員全体で取り組むというより、総務部と一部の先生たちで実施していた感がある。来年度の実施方法は検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンハイスクールについて、教職員の指導の下、生徒で運営されたことは、中学生からも高い評価があった。 学校新聞など生徒中心の広報活動・表現力が素晴らしい。今後は発行部数を増やすなどさらなる広報を行ってほしい。 学校、地域と家庭との連携をとり、HP、メール配信のより一層の推進力の充実を図ってほしい。 コロナ禍で校内活動の制限はあるが、今できることの検討と終息後の活動計画など先を見据えた計画を考える必要がある。 生徒を中心とした広報活動がよくできている。
			オープンハイスクールや学校説明会等とおして、本校の魅力は広く伝える。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に、秋のオープン・ハイスクール実施した。生徒目線の運営ができ、中学生からも高い評価を得た。今年度は、当日までのカウントダウンWebページを作成し、様々な角度からの本校のPRページを毎日アップロードし、広報にも役立った。 学校新聞など生徒を中心とした広報活動が多く、生徒の表現力も高まり生徒の自信にもつながった。 ホームページでの教育活動の公開、学年通信、学校・学年からのメール配信などきめ細かく学校から家庭・地域に発信した。 	
6	危機管理体制	防災・安全対策	危機対応に対する認識が確立され、非常時に役立つ体制を作る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、全校生での防災訓練などは計画通りの実施できなかった。 規模を縮小し振り返ることで、危機管理の意識を高めた。また密を避けるために、避難出口の箇所を増やし避難先をグラウンドに変更するなどの工夫を行い実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響下での制限もあり大変だったと思う。消防署の心肺蘇生法やAEDの講習会も継続してほしい。 コロナ禍の中だからこそ防災教育が見えたと良かったと思う。 新型コロナウイルスの状況下での防災対策(地震・風水害)の研修が必要である。 コロナウイルス感染拡大の影響の中、工夫をして実施できている。
		防災・安全教育	防火、防災、避難訓練や講演会、教育活動全般を通して防災意識を育む。	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校としての危機意識を高める訓練（避難所設営訓練）を昨年度実施した。今年度さらに充実した研修にすべく地域や関係各所（消防・自衛隊等）との連携もしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止せざるを得なかったのは残念であった。 津波を想定した避難訓練の実施と昨年度の避難所設営訓練の概要をビデオ研修を実施した。 教急シミュレーション研修及び訓練について、新型コロナウイルス感染防止のため、実施ができなかった。しかし、 	
7	学校行事の精選と適正化	行事の精選、内容充実	文化祭や体育祭、球技大会などの行事が、教育活動全体の視点から実施され、年々改善改良が図られているよう工夫努力する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭や球技大会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。来年度の文化祭の在り方を考える中、実施できるかどうかの検討が必要である。 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、修学旅行を中止した。しかし、生徒の健康に留意するという点から適切な判断であった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の下、文化祭や球技大会の中止はやむをえず残念なことであったが、生徒の健康を第一とした対応としては良かったと思う。 PTAの協力での体育祭のDVD作成は良かったと思う。 修学旅行の中止は生徒には残念である。高校生活の最高の思い出となる一大イベントの修学旅行について、来季は、分割してでも思い出の残る修学旅行を実施してほしい。また、DVDなど記録におさめることもいいのではないかと。 コロナ禍での行事の実施方法などの検討が必要と考える。今後は、オンラインやビデオ等の活用を提案したい。
			文化祭や体育祭、球技大会などの行事を通して、生徒の自主性や創造性を培われるよう工夫する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月の高南新喜劇や漫才も生徒たちは非常に楽しんでいた。 行事について、見直すことで活性化を目指してきた。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から文化祭を中止した。そのため、今年度唯一生徒が力を発揮し充実する体育祭は無観客で実施した。保護者には、当日の様子をまとめたDVDを全員に配布する形で、生徒の様子を伝えることが出来た。PTAには非常に感謝したい。 「総合的な探究の時間」では、学校や地域を良くするというアプローチから探究学習を行い、全体発表は今年ではできなかったが、学年内での発表会を実施した。 	
8	情報教育	情報機器の活用	デジタル機器を活用し、より効果的で創造的な授業方法の開発に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学びのイノベーション事業で、全HR教室にプロジェクターが設置され、授業でICTを活用する環境が整った。 ICT機器を使えない使おうとしない教員が少なくない。科目の特性も考え、積極的に利用することで授業改善につながるべきが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全HR教室にプロジェクター設置、授業でICTを活用する環境が整い良かった。 ICT機器を使えない・使おうとしない教員が多いのは今後の大きな課題である。 情報モラル・SNSの危険性の啓発を続けてほしい。 情報技術の習得や普段の生活に上手に取入れる学習方法を考えてほしい。
		情報モラルについて	情報の持つ意味や役割、その影響について理解させ、情報を扱う際の義務や責任についての情報モラルについて	B	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの課題配信やアンケートを活用している教員や部も増えてきている。来年度、教員からだけでなく、生徒側からのアプローチも行えるよう、環境整備を進めていく。 	
			個人情報保護等の情報モラルに関して研修等により、教員自身も情報を扱う際の義務や責任、モラル意識を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科としては、国語表現・政治経済でタブレットを使用している。今後、ITCの利用を研究していく。 	
9	特色ある学校作り	特色ある学校作り	学校の特色化を推進するために、外部講師の活用などをとおして生徒の興味関心に応える発展的な学習活動を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比較すると、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校設定科目での外部講師を活用できなくなり、特色ある授業は停滞した。 吉本興業との連携はよく、次年度は全学年に拡げ、今後も発展させていく。 特色類型の学校設定科目の内容について、来年度、担当者を含め組織や内容の構築を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用を行う。(例:郷土の偉人の講演会) 高砂南高校と企業、自治会、老人会等との連携を行ってほしい。 授業活動体験発表会などの発信の継続と特色ある授業の内容充実を図ってほしい。 コロナのため外部講師が活用できず残念である。次年度に期待したい。
10	人権教育	人権教育推進の取り組み	全般的な理解の下に、各種研修会を通じて教職員の意識の向上を図る。	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人権講演会がなくなり、HRのみであり、代わるものを考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染拡大の中、人権講演会が無くなったのはやむをえない。今後は、オンラインやビデオ等の活用を提案したい。 教職員の人権意識啓発研修の充実など教育活動全体を通して、またLHRなどで人権意識の向上を図ってほしい。 コロナ禍のため、講演会がなくなったのは止むを得ない。今後の 日頃からのいじめの早期発見、未然防止に努める体制は構築できている。常にLHR、学年集会等で話し合いの継続を。 「いじめは絶対許さない」姿勢で指導対応や教員の日々の丁寧な細かい指導を継続してほしい。 情報共有し、適切な対応ができている。
		人権意識の育成	3年間を見通した人権HRの実施や、人権講演会、福祉体験活動を始め、平常の教育活動全般の教育活動を通して人権を尊重する教育活動を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「社会と情報」「現代社会」では、授業を通して人権感覚を育む取り組みを行った。2年生の「国際社会探究」では、SDGsのゴールに向けて、自分自身がどのように貢献できるかを考え、海岸のゴミ掃除やフィリピンの人々に「もったいない」を伝える絵本を作るなど、実践的な活動も行った。 	
11	いじめ対応	いじめに対する心構え	いじめは人間として絶対に許せない行為であるという共通認識のもと、被害者の立場に立ち、毅然とした態度で臨んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から情報を共有し、学期毎にアンケートを実施した。いじめの早期発見、未然防止に努める体制は構築できている。今後はどんな些細な変化でも見逃さないという個々の力を磨いていくことが必要不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめは絶対許さない」姿勢で指導対応や教員の日々の丁寧な細かい指導を継続してほしい。 情報共有し、適切な対応ができている。
		具体的な対応	どんな些細な変化も見逃さず、いじめの未然防止、早期発見に努めている。また、いじめの事実を認識した場合はいじめ対応チームを中心として	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施後、気になる生徒は担任から丁寧な聞き取りをした。問題はなかった。 日々の健康観察や保健室入室する生徒について、背景や要因を把握し、問題の早期発見に繋がった。 生徒の健康や課題や生徒指導上の問題について、職員一人で抱え込むことがないよう組織の構築ができた。 	

※ 学校自己評価においては、「よくできた」「できた」「あまりできなかった」「できなかった」のうち、「よくできた」「できた」と回答があった割合(%)
 ※ 生徒アンケート、保護者アンケートにおいては、「よくできた」「できた」「あまりできなかった」「できなかった」のうち「よくできた」「できた」と回答があった割合(%)
 ※ 評価は、自己評価、生徒・保護者のアンケートの割合を、4段階(A:80%、B:60%、C:40%、D:20%)でおおむねの評価を行い、過年度比較、学校関係者の評価などを加味し総合的に評価した。